

2018年度第3回理事会議事録

期 日：2019年3月10日（日）13:30～15:30

場 所：公益社団法人 日本放射線技術学会 東京事務所

報告事項

1. 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験申請状況

申請者：342人 初回181人（53.9%） 再受験161人（47.1%）

書類審査：書類不備による再提出要請者7人（書類再提出者7人）

2. 更新申請状況（2月26日の事前審査時点）

2-1. 第4回認定試験合格者 第2回目の更新

対象者：92人 更新申請者：81人 更新費未払い者：11人

更新要件の要検討者：2人

2-2. 第9回認定試験合格者 第1回目の更新

対象者：109人 更新申請者：105人 更新費未払い者：8人

更新要件の要検討者：2人 更新資料未送付者（更新費納入済）：1人

2-3. 3月3日の更新講習会申込：34人

3. 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験準備成委員会

期日：2019年3月2日（土）16:30～19:30

場所：神戸大学医学部附属病院臨床研究棟4階談話室 他 試験会場

4. 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験実行委員会

期日：2019年3月3日（日）8:00～17:30

場所：神戸大学医学部附属病院 6F 大講義室，5F_B 講義室，4F_A 講義室

シスメックスホール，臨床研究棟4階談話室

(1) 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験受験受付（8:45～）

受験申請者：342人 受験者：317人（受験率：92.7%） 欠席：25人

(2) 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験

9:50～10:50 筆記試験（1）基礎物理，撮像技術，応用技術，読影技術

11:10～12:00 安全管理講習会（1）人体への影響 [内田・笠井]

13:00～13:50 安全管理講習会（2）MR装置の安全性とその対策 [丸山・小林]

14:10～15:10 筆記試験（2）保守管理，安全性，アーチファクト，解剖

(3) 更新のためのMR安全管理講習会（第14回MR専門技術者認定試験併会）

11:10～12:00 安全管理講習会（1）人体への影響 [内田・笠井]

13:00～13:50 安全管理講習会（2）MR装置の安全性とその対策 [丸山・小林]

14:00～14:40 安全管理講習会（3）MRI対応植込みデバイスへの対応 [土井]

14:45～15:20 安全管理講習会（4）MR専門技術者の役割 [土井]

更新講習受講者 事前申込：34人（欠席1人） 当日申込：0人

5. 会員管理システム構築の進捗状況

血管撮影・インターベンション専門診療放射線認定機構、核医学専門技師認定機構、磁気共鳴専門技術者認定機構の3機構共同で構築

(1) 決済方法 クレジット代行業者 (F-RAGE) との業務締結

- 1) クレジットカードによる決済 3% (機構負担)
JCB、VISA、Master、American Express カードに対応
- 2) コンビニ払いによる決済 手数料 150~300 円 (利用者負担)
セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート (サンクス、サークル K)、
ミニストップ、セイコーマートの 5 種のコンビニに対応
- 3) トランザクション transaction : 1 通信あたりにかかる費用
1 通信あたり約 50 円
- 4) F-RAGE 利用料
初期費用 5 万円 ショップ ID ごとに利用料 : 毎月 1 万円 (年 12 万円の経費)

(2) 今後の予定

- 1) 認定試験関係で最初に利用するのは血管撮影・IVR 認定機構
- 2) 5 月 1 日稼働予定 (F-RAGE からの情報)

6. 認定研究会の承認 (メール審議)

- 92) 2019/1/11 東北 Advanced MR Forum (仙台) 代表 : 金沢 勉 (新潟大学医歯学総合病院)
- 93) 2019/2/21 三重 MR 愛勉強会 (津) 代表 : 渡邊 武志 (いなべ総合病院)

7. 事務業務削減への方策

- 1) 問合せを新アドレス (jmrts-office@jsrt.or.jp) 1 本とし、土井理事への自動転送とした。
- 2) 電話による問合せがないように、HP から JSRT 事務局の電話番号を削除した。

議事

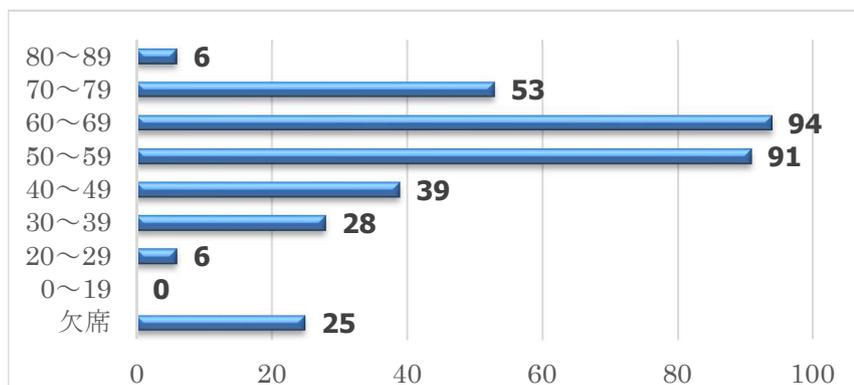
1. 第 14 回磁気共鳴専門技術者認定試験結果

(1) 試験問題の再確認 (2 題の修正をおこなった)

問 6 RF パルスを 3 回印加したときに発生するエコー数はどれか
(RF パルスの 1 番目と 2 番目の間隔は 20ms、2 番目と 3 番目の間隔は 40ms)

問 31 医療デバイスの MRI 対応について間違った記述はどれか。

(2) 認定試験採点結果



1-1. 第14回磁気共鳴専門技術者認定試験結果に関する審議

- 議案 1) 解答肢の変更とその対応に対する可否：問題なし
- 議案 2) 合格基準の審議：60点以上を認定することで承認
- 議案 3) 合格通知および不合格通知書の確認：承認

1-2. 認定試験結果

平均：57.4点（標準偏差 12.6） 第1部 28.7/50 第2部 28.8/50
認定率：48.3%（合格 153人、不合格 164人）
認定者の男女比：90.2%（男性 138人、女性 15人）
受験経験 初回受験者認定率：66%（初回 101人、再受験 52人）
申請団体 JSMRM：22人 JART：89人 JSRT：41人

2. 第4回・第9回磁気共鳴専門技術者の更新

- (1) e-learningによる受講 第4回 49人（60.5%） 第9回 44人（40.4%）
- (2) 審議案件 ① 上級資格の論文の確認（上級でなく一般で更新可能）2件
② 更新ポイントにMRI分野以外の発表がはいつている。
③ 認定研究会でない講演がポイントに含まれている。

2-1. 更新審査

- (1) 第4回認定試験合格者2度目の更新申請のあった81人の更新
および13人の上級磁気共鳴専門技術者の審議 → 申請書類に問題なく承認
- (2) 第9回MR専門技術者認定者の更新申請のあった105人の更新
および14人の上級磁気共鳴専門技術者の審議 → 申請書類に問題なく承認
- (3) 更新延長申請について 2人の更新延長を認めた。
- (4) 更新申請のうち要審議案件に関して
 - 1) 上級申請の2人は一般更新とする。
 - 2) ②③はポイントとして認められないため更新延長とする。

2-2. 更新審査結果

認定試験	更新対象者	上級	一般	延長	非更新
第4回認定者	92人（上級17人）	13人（新規5人）	66人	4人	9人
第9回認定者	109人	13人	91人	1人	4人

3. 新医療への認定者の広報について

- (1) 掲載に関する本人の承諾を取得する
昨年同様に認定者にeメールで問合せを行い、URLから回答を得る。
会員管理システムが稼働後は、会員情報内に広報の可否に対する回答欄を設ける。
- (2) 第14回認定者に関して
認定申請書（合格通知書）に新医療への掲載の有無に関する可否項目欄を設ける。
- (3) 会員への周知
可否の回答依頼のメールを送付した時点でホームページに広報を出す。

4. 第 15 回磁気共鳴専門技術者認定試験について

- (1) 会場候補：首都大学東京を予定に準備を進める
- (2) 試験問題作成委員候補：関西地区のメンバーに依頼する
- (3) 日程：沼野理事に調整していただく。

5. 第 12 回 MRI 医療安全管理セミナーの開催について

- (1) 昨年とほぼ同時期に首都大学東京で開催する。
- (2) 内容は高橋理事に一任する。
- (3) 開催期日は 12 月上旬を予定する。

6. 機構の活動ならびに経費の見直しについて

- (1) 研究チームの募集について
研究成果の波及効果が大きいので継続事業とする。
募集時期、審査方法、経費の運用などについて整備をする。
- (2) 国際学会への派遣事業
次年度から取りやめる。
ホームページでの案内を削除し、中止することの広報を行う。

7. 事務所問題

- ・公益社団法人内に NPO 法人の事務所があることに行政は問題ないと判断している。
- ・現状、電話での問い合わせがなくなり少しは業務が減っている。
- ・次年度から会員管理システムが導入され、さらに業務が縮小することを予測している。
- ・業務（作業起点）を東京事務所に移転することも検討する。

8. その他

- (1) 会員管理システム稼働に向けて
 - 1) 会員情報の移行などできるだけ早期に稼働できるようにする。
 - 2) 認定者の登録のための ID とパスワードは封書による発送を行う。
- (2) 更新ポイントの修正
 - 1) 他の認定機構主催団体の学術大会の参加ポイントが少し高い。
磁気共鳴医学会が 15 ポイントであり、それに比較して技術学会の大会が支部学術大会も含めて年に 3 回あるので、総合的に考えると 10 ポイントが妥当だと考える。
 - 2) 技術学会内の部会イベントに参加することにプラス 5 ポイントを加算することも検討したが、技師会との整合性が取れないためこの提案は採用しないこととした。
 - 3) 磁気共鳴医学会以外の機構を構成する団体の全国学術大会は、当初のとおり 10 ポイントのままとする。
 - 4) MR 専門書の執筆を 50→30、認定研究会の講師を 30→20、学会誌への解説記事 30→20 にポイントを下げる。理由は以下のとおり、
 - ①他のポイントに比べて高い、②このポイントが取得できる対象者が限られる、③更新者の多くがここでのポイントで更新ポイントをクリアしていない。

(3) 更新延長の起点について

本機構では更新起点は認定年によって決めているが、他の認定機構では延長期間を空白とし、更新があった時点から新たに起点としている。

→ 当初に決めた通り、認定年を起点に更新年を定める。

(4) 女性従事者に対する電磁放射線被ばく管理に関する論文

機構のホームページの安全性情報にリンクを貼って広報する。

(5) ロゴマークの広報

専門技術者が自由に活用できるようにホームページからロゴマークがダウンロードできるようにする。

研究班活動にはロゴマークを入れていただく。

徽章の継続について

5年以内に注文を継続しないと型抜きが維持できないので適宜注文する。

(6) 会員管理システム移行時以降の個人票の管理

個人票を電子的に管理できるシステムを考える。

(7) 2018年度第1回理事会の開催

6月下旬から7月上旬の間に東京で開催する

以上